

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果 分析と考察

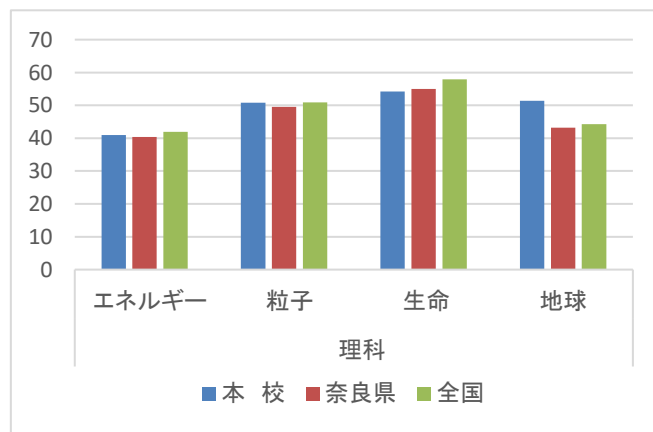
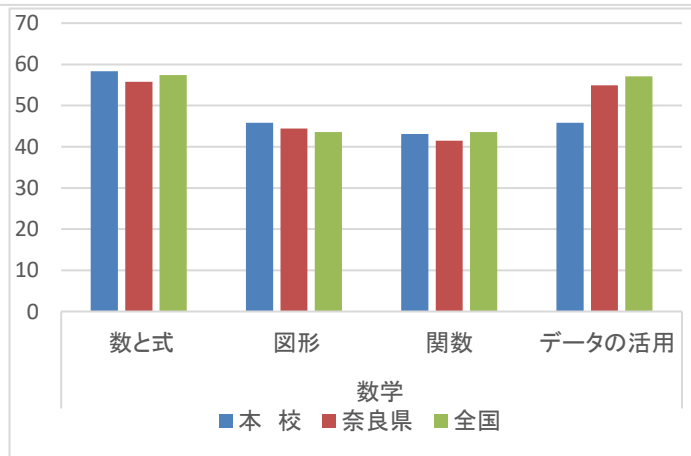
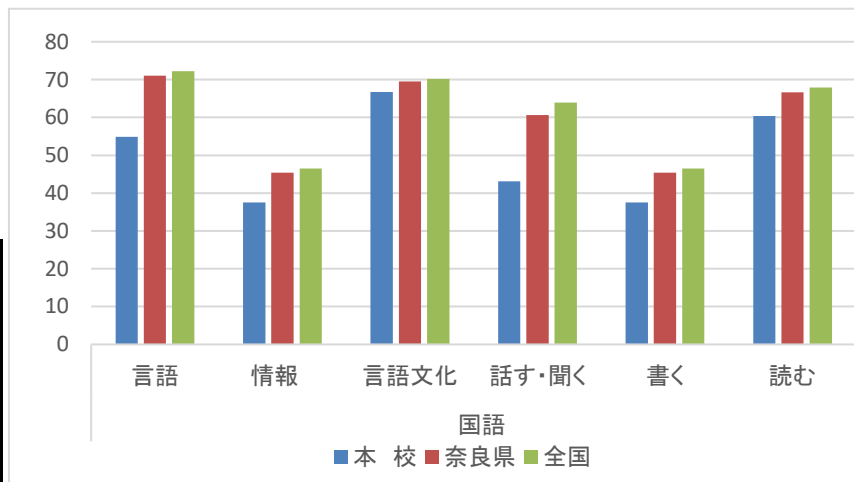
## 1 調査内容

- ① 教科に関する調査（国語、数学、理科）
  - ・国語：「知識」と「活用」の合体問題
  - ・数学：「知識」と「活用」の合体問題
  - ・理科：「知識」と「活用」の合体問題
- ② 質問紙調査
  - ・生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

## 2 教科に関する調査結果の概要

全国学力、学習状況調査  
平均正答率グラフ(%)

	今年度	本校	奈良県	全国
国語	<b>全体</b>	<b>57</b>	<b>68</b>	<b>69</b>
	言語	54.9	71.0	72.2
	情報	37.5	45.4	46.5
	言語文化	66.7	69.5	70.2
	話す・聞く	43.1	60.6	63.9
	書く	37.5	45.4	46.5
	読む	60.4	66.6	67.9
数学	<b>全体</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>51.4</b>
	数と式	58.3	55.8	57.4
	図形	45.8	44.4	43.6
	関数	43.1	41.5	43.6
	データの活用	45.8	54.9	57.1
理科	<b>全体</b>	<b>50</b>	<b>48</b>	<b>49.3</b>
	エネルギー	41.0	40.4	41.9
	粒子	50.8	49.5	50.9
	生命	54.2	55.0	57.9
	地球	51.4	43.2	44.3



### 3 奈良県における、各教科の考察とこれからの課題

#### ◎中学校国語における本県の傾向

全ての分野で平均正答率が全国よりも低い状況になっている。「話すこと・聞くこと」「記述式」に関する問題が特に低くなっている。生徒のつまずきの傾向を分野ごとに細かく把握しつつ授業改善に取り組む必要がある。

#### ◎中学校数学における本県の傾向

思考、判断、表現において平均正答率が低い傾向にある。また、数学の勉強が「大切」「よく分かる」「役に立つ」と肯定的に回答する生徒の割合に比べ、「好き」と肯定的に回答する生徒の割合も低い。「日常の事象から見出した問題を解決する活動」「学習場面から見出した問題を解決する活動」「数学的に表現し伝え合う活動」といった授業を充実させ、数学的活動の楽しさを実感させつつ数学的に考える資質、能力の育成を図る必要がある。

#### ◎中学校理科における本県の傾向

学習意欲や学習への取り組みに関する質問項目において、前回より肯定的な回答の割合が増加している。しかし、「知識の概念的理解」や「考えの妥当性を検討して改善したりすること」に課題が見られる。身近な生活と理科で学習した知識を結びつける授業や探求の過程全体を生徒が主体的に行える授業に改善する必要がある。

### 4 本校における、各教科の考察とこれからの課題

#### ◎全体として

・小規模校において、経年変化の傾向は参考にしがたい面はあるものの、総合的に本校の平均正答率は、国語・数学・理科の3教科とも、奈良県結果や全国結果と同じ、またはやや低い数値を表している。今回の結果を受けて、学校における学習状況、家庭状況、生徒意識等との関連を考察しつつ、効果的な指導方法を検討していきたい。

・今年度も基礎学力の低下傾向がみられる。今後も授業や学びタイムにおいて、常に既習内容を確認する学習を実施する。また、ICTを活用して主体的に学びに向かいつつ、基礎的な知識を日常生活において応用・発展させる授業形態を実施していく必要がある。

#### ◎国語科における考察と課題

・『知識・技能』における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「思考、判断、表現力』における「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」6領域すべてにおいて、全国・奈良県の平均よりやや下回った結果になっている。言語知識・語彙力の少なさに課題が見られる。

・全体的に言語表現の技法を理解し、工夫することに課題が見られた。その結果、「話すこと・聞くこと」における正答率も低い結果になっている。漢字や言葉の学習をより重点的に進めることで、言語知識の学力向上につなげていきたい。

- ・「国語の学習は社会に出たときに役に立つ」と答えた生徒の割合は高く、ICTを活用した幅広い授業や図書館教育や読書活動を組み込んだ授業をすることで、「言語文化に関する知識」の正答率は高い結果になっている。学習内容をさらに活用させ、対話的な活動を通じて幅広い学習を進めていく必要がある。

#### ◎数学科における考察と課題

- ・「数と式」「図形」「関数」や「データの活用」の4領域では、ほぼ均等に学力をつけることができている。しかし、「関数」の領域では本校でも他の領域ほど得点は取れておらず、奈良県の結果と同様、事象を数学的に捉え、式・表・グラフを関連付けながら問題解決していく力の弱さが見られる。数量関係に関わる教材を授業でより多く扱っていく必要がある。
- ・4領域のうち「データの活用」において資料を読み取る問題での正答率も低く、全国・奈良県の平均よりやや下回った結果になっている。ヒストグラム・箱ひげ図などを技能として表すことが目的となり、分析し説明するといった活用に至っていないと思われる。ICTを活用した幅広い授業を行い、資料を分析する力を養いたい。
- ・「数学の学習は必要である」と答えた生徒の割合は高いが、問題に対して、あきらめずにいろいろな方法で考えようとする意欲はやや低くなっている。学習内容をさらに活用させ、対話的な活動を通じて幅広い学習を進めていく必要がある。

#### ◎理科における考察と課題

- ・「エネルギー」を柱とする領域「粒子」を柱とする領域「生命」を柱とする領域や「地球」を柱とする領域の4領域では、ほぼ均等に学力をつけることができている。また、「地球」の領域では全国・奈良県の結果よりも正答率が高く、天気・気圧に興味を持っている生徒が多いように思われる。
- ・本校の理科の学習では実験・観察を中心とした授業を行い、毎時間主体的に学習できている。その為か将来理科や科学技術に関する職業に就きたいと考える生徒の割合は奈良県・全国の比率よりもかなり高い。
- ・「理科の授業・実験が分かりやすい」「理科の学習が好き」と答えた生徒が奈良県の結果と同様高い割合を示す一方で、「授業で計画的に観察・実験を行えるか」「結果を自分で考察しているか」の問いかけには低い傾向が見られ、実験に対する消極的な様子も見られる。実験することの意義と過程の大切さを実感させる必要がある。

## 5 質問紙調査の結果抜粋

問題 番号 1	毎日朝食を食べていますか？	年度	本校	奈良県	全国
		平成30年度	87.9	89.9	91.9
		平成31年度	<b>83.9</b>	<b>80.1</b>	<b>82.3</b>
		令和3年度	86.4	90.8	92.8
		<b>令和4年度</b>	<b>87.5</b>	<b>90.4</b>	<b>91.9</b>

問題 番号 7	自分には、よいところがある と思いますか。	年度	本校	奈良県	全国
		平成30年度	81.8	75.4	78.8
		平成31年度	71.0	71.2	74.1
		令和3年度	86.4	71.6	76.2
		<b>令和4年度</b>	<b>58.3</b>	<b>73.5</b>	<b>78.5</b>

問題 番号 9	将来の夢や目標を持っていま すか。	年度	本校	奈良県	全国
		平成30年度	81.8	70.3	72.4
		平成31年度	67.8	68.8	70.5
		令和3年度	81.8	64.5	68.6
		<b>令和4年度</b>	<b>62.5</b>	<b>65.7</b>	<b>67.3</b>

問題 番号 13	いじめは、どんな理由があっ てもいけないことだと思いま すか。	年度	本校	奈良県	全国
		平成30年度	100	94.4	95.5
		平成31年度	93.5	94.6	95.1
		令和3年度	100	95.6	95.9
		<b>令和4年度</b>	<b>91.6</b>	<b>95.9</b>	<b>96.4</b>

問題 番号 25	新聞を読んでいますか？	年度	本校	奈良県	全国
		平成30年度	6.0	13.3	13.9
		平成31年度	19.3	12.8	12.7
		令和3年度	9.1	9.5	10.4
		<b>令和4年度</b>	<b>8.3</b>	<b>8.1</b>	<b>9.4</b>

問題 番号 43	生徒の間で話し合う活動を通じ て、自分の考えを深めたり、広げ たりすることができていると思いま すか。	年度	本校	奈良県	全国
		平成30年度	60.6	67.2	76.3
		平成31年度	71.0	64.1	72.8
		令和3年度	63.7	67.3	77.8
		<b>令和4年度</b>	<b>66.7</b>	<b>69.2</b>	<b>78.7</b>

問題 番号 45	「総合的な学習の時間」では、自 分で課題を立てて情報を集め整理 して、調べたことを発表するなどの 学習活動に取り組んでいますか。	年度	本校	奈良県	全国
		平成30年度	42.4	42.9	53.8
		平成31年度	58.1	46.3	61.5
		令和3年度	72.7	48.4	70.2
		<b>令和4年度</b>	<b>45.8</b>	<b>53.6</b>	<b>72.1</b>

問題 番号 48	1,2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。	年度	本校	奈良県	全国
		平成30年度	63.7	66.6	73.8
		平成31年度	58.1	46.3	61.5
		令和3年度	77.2	60.6	73.9
		令和4年度	58.4	76.0	85.5

## ◎本校における所見と考察

- ・基本的な生活習慣である、朝食・就寝時間等の項目において、今年度も全国・奈良県平均並みになっている。しかし、「夜遅くまで起きている」や「朝食を食べない」などの比率は今年度も高く、この改善には家庭の協力が不可欠なため、これまでと同様に保護者に働きかける必要がある。
- ・学校に行くのが楽しいと答えている生徒は、新型コロナウイルス感染症防止対策による行事自粛があり昨年度より少し減少したものの8割を超している。小中一貫教育指導の中でうまく人間関係が築けている状況にあると思われる。
- ・「1日に3時間以上テレビゲームをする」と答えた生徒は半数になり、昨年の調査よりさらに増加している。また、8割を超える生徒が毎日1時間以上ゲームやネットに時間を費やしている実態がある。計画的に生活する習慣やネット依存を断ち切る習慣を身に付けさせる必要がある。
- ・物事の取組に対する達成感や、自分の良いところを認識する自己肯定感は昨年より低くなっている。また、「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒も昨年より減少している。「達成感」を持ち合わせている生徒が昨年より減少傾向にある。今後、日々の生活の中で生徒自身が選択したり、決定したりする場面を意図的に増やし、キャリア教育をさらに体系的・系統的に取り組んでいきたい。
- ・いじめを許さない意識は昨年より減少し、「いじめ」に対する意識や「学校の規則を守っている」等の規範意識は全国・奈良県平均より低くなっている。今後、日々の生活の中で人権意識を高める活動や生徒会活動を活発化させ、主体的に活動させながら、ルールやマナーを守るといった指導も行っていきたい。
- ・授業の学習内容において、「生徒の間で話し合う活動を行った」と答えた生徒が昨年より大きく減少し、自分の考えを深めたり、広げたりできているという実感も低くなっている。新型コロナウイルス感染症防止対策によるオンライン授業の増加により、例年よりも一方通行の授業になってしまった状況によるものではないかと考えられる。今後生徒が主体的に取り組む授業を増やし、言語活動の充実とともに、学習内容を活用させる取り組みを取り入れた授業を行っていきたい。
- ・読書する生徒は増えつつあるが、全体として読書習慣はまだまだ定着しているといえない。また、新聞を読んでいる生徒は昨年よりさらに減少し「毎日読む」と答えた生徒は無く、9割近くの生徒が新聞を全く読まないという状況になっている。この実態が国語科だけでなく全教科において、問題を読み解く力や問題解決の方法を説明する力の低下の一因となっている。学校生活全般の中で、読書を推進するための企画や新聞を活用した学習などをさらに進める必要がある。
- ・「教科の学習は大切である」と考えており、家庭学習の時間は全国・奈良県平均並みに確保されている。しかし、自主的に予習・復習するといった独自の計画的な学習の定着度は低く、学習したことを積極的に活用するといった意識も低い。今後、授業方法や学習指導などにおいてさらなる改善に取り組み、主体的に学習し、学習内容を活用させる習慣をつける必要であると思われる。

・地域の行事に参加するなどの地域への貢献度は今年度も高く、新型コロナウイルス感染症防止対策による行事自粛の中でも地域との交流は定着していると考えられる。

・本校では小規模校の利点として個別対応に取り組みやすく、授業カリキュラムや放課後などの課外授業など場面に応じた個別指導を実施している。しかし生徒数が限られ、人間関係が画一的になりやすいため、他の一定規模の学校のように切磋琢磨しながら育っていく部分や多数の考え方や価値観と出会う学びが得られないことに課題を感じる。学校行事や総合的な学習を通して幅広い学びが必要であると思われる。

## 6 学習指導の指針

### 言語活動の充実

- 基礎学力を定着させるため、文章を書く指導の大切さに留意する。
- 解き方の指導だけでなく、考え方を大切にしたい指導を企てる。
- 生徒が積極的に疑問を持つような問題提起を準備する。
- 生徒が主体的に考える場面を設定し、考えたことを表現・交流する場面を設定し（実験レポートの作成、立場や根拠を明確にした論議など）、言語活動を充実させる。

### 学習時間の確保

- 授業時数を確保していく。
- 自らが計画・実践・検証・改善(PDCAサイクル)をもとにした家庭学習を生徒に取り組ませる。
- 教師自らが計画・実践・検証・改善(PDCAサイクル)をもとにした授業改善に取り組む。

### 今後求められる指導改善

- 各授業において、生徒に学習目標を分かりやすく示し、生徒の理解度や実現状況を常に把握しておく。
- 知識や理解の学習に加え、自分の気持ちや意見を話したり書いたりする言語活動の充実を図り、さまざまな教科、時間、場面を通じて、主体的・対話的で深い学びを推進していく。
- 生徒に学習成果を実感させ日常生活に生かしつつ、自尊意識を高めさせる授業を構築していく。
- 自分で調べる場面でのICT活用だけでなく、自分の考えをまとめ、発表する場面でのICTの活用を行い、個別で最適な学びと協働的な学びを充実させる主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改革を行う。